

令和5年度 学校関係者評価(後期)

鹿児島市立吉野東小学校

1 自己評価の方法について

A (よい) B (課題はあるが概ねよい) C (課題があり、速やかな改善が必要)

	観 点	評価資料	評価
1	児童や学校の実態、保護者や地域の意見・要望等を踏まえ、学校としての教育目標等が重点化され、適切に設定されているか。	自己評価 保護者アンケート	A
2	自己評価が定期的に実施されているか。	自己評価 保護者アンケート	A
3	自己評価項目は、必要な内容を網羅しているか。	自己評価 参観時アンケート	A
4	自己評価結果を次の教育活動の改善に活用しているか。	自己評価 保護者アンケート	A
5	自己評価が全校体制で行われているか。	自己評価 保護者アンケート	A
6	客観的な評価資料に基づいた自己評価になっているか。	自己評価	B
7	保護者へのアンケートが実施され、自己評価を行う上での参考になっているか。	自己評価 保護者アンケート	A
8	児童へのアンケートが実施され、自己評価を行う上での参考にしているか。	自己評価 児童アンケート	A
9	保護者以外(地域住民等)へのアンケートが実施され、自己評価を行う上での参考にしているか。	学校評議員会 参観時アンケート	A
10	アンケートを行った児童、保護者の匿名性の担保に配慮しているか。	保護者・児童 アンケート	A
11	学校評価(自己評価・学校関係者評価等)結果を保護者等に分かりやすく、適切に公開しているか。	学校だより	B
12	個人に情報の保護に十分配慮して配慮して情報を公開しているか。	学校だより ホームページ	A
所見	<p>○ 評価の方法や内容については、概ね適切な評価を実施することができたと考えている。一部、その評価項目や指標など、学校関係者(保護者や学校運営協議会委員など)に伝わりにくい面もあるので、次年度はそうした点の改善に努めていきたい。</p> <p>○ 学校関係者による評価結果は、適宜、被評価者である保護者等に学校だよりやホームページ等で示している。特に保護者からの要望等に関しては、次年度以降の学校運営の参考資料として取り扱っている。今後は、評価結果を基にした学校運営上の改善点を保護者等に周知していき、学校の取組をアピールできるようにしていきたい。</p>		

2 自己評価の内容について

学校の自己評価書やかねての情報提供、教育活動参観等を通して検証する。

○ 成果

学校の取組の主な成果（学校記述）	
<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の授業や各種行事については、その目的を達成するために児童の実態や家庭・地域のニーズ等を踏まえ、各学年・各係で連携して工夫・改善しながら進めている。 各学力検査（全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査等）において、全国平均及び県平均を上回る結果が得られた教科があり、学力向上に関して一定の成果が挙げられた。 生徒指導事案に関しては、校内での指導体制を確立することで組織的な対応を心がけることができた。そのため生徒指導上の大きな問題への対処に関しては、チームとしての対応を進めていくことで解決に至る事案もあった 	
評価及び助言等（学校関係者評価委員会記述）	
<ul style="list-style-type: none"> 児童会による挨拶運動、小中合同研修会、乗り入れ授業の実施など、一小一中の特性を活かした小中連携に取り組むことでよい効果が出ている様子なので、次年度も更にこの連携を進めてもらいたい。 保護者へのお知らせが紙媒体からアプリによる配信にほとんど移行したとのこと。時代の流れを感じる事柄だが、教員の業務改善の視点からも大切な取組なので、今後も一層の取組強化を行ってもらいたい。 	

○ 課題

学校の取組の主な課題（学校記述）	課題に対する解決策（学校記述）
<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関しては、依然として課題を抱えた学年もあることから、継続して学力向上に向けた取組が必須である。 不登校や登校渋りの児童が増加傾向にあり、そうした児童への組織的な対応に取り組む必要がある。 特別支援教育に関して、全体体制の下での取組を更に充実させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修や日々の取組の中での授業改善を重点的に取り組んでいく。また、指導体制の工夫改善や ICT 機器の効果的な利活用の促進を図る。 学校だけでは対応できないケースが増えているため、関係機関等との連携を深め、様々な関わりの中で課題解決に努めていく。 校内委員会での協議や共通理解の徹底を図り、特別支援教育の充実を目指す。
評価及び助言等（学校関係者評価委員会記述）	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な学習習慣や生活習慣の定着に向けて、学校と家庭、地域が一体となった取組を継続できるようにしてもらいたい。 ○ 大規模校ゆえの問題が多いと感じる。例えば、PTAに関わる保護者が少なく 「やる人だけがやる」現状があるのではないか。 ○ 児童のほとんどが楽しく過ごしていることは、学校の人的資源を含めた教育環境の作用が大きく働いていると思う。一方、学習意欲や体力低下の要因は、家庭教育の低下にも原因があると思われる。保護者の学校教育への意識向上強化の必要性も感じている。 	